

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300431
法人名	山形小木医科器械 株式会社
事業所名	グループホーム あさひ
訪問調査日	平成 19 年 12 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 6 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	672300431
法人名	山形小木医科器械 株式会社
事業所名	グループホーム あさひ
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6 (電 話) 0237-67-7766

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(平成19年11月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,090 円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日599円他実費
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	357 円	昼食 357 円
	夕食	462 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月2日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 79.88 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝日町立病院 宮宿歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「その人らしさを大切に、ゆったり楽しく」「地域の人々との交流や地域社会との関わりを大事にする」などの理念や方針を掲げ、地域や家族、行政、医療機関などとの連携にも配慮した「その方にとって何が一番有効なのか」をいつも意識したケア、和風の雰囲気と落ち着きを大切にされた家庭的で安心できるケアなど、開設当初からの質を高める取り組みは今年で2年目を迎えています。利用者が行きたい場所・食べたいものへの支援、日中の楽しみある活動の支援、病気の方への定期散歩や食事療法の支援、小中校生や地元の方々との活発な交流、家族から率直な意見や要望を引き出すための場として家族懇談会の開催、職員育成強化のための研修や講演会への積極的参加、高齢者虐待防止ネットワーク運営協議会委員の委嘱など、利用者と家族が安心感に日々包まれながら、地域の一員として暮らすことができているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	インフルエンザ以外の感染症についての予防や対応の取り決めに整備して実行していくことは、安全委員会を月1回開催し、感染症マニュアルを整備するとともに、会議の場でその内容を伝えながら、全職員に周知を図り、日頃から、手洗い・うがいが励行されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者は、サービス評価への意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果についても各ユニット会議で改善に向けて話し合い、具体的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3ヵ月に1回開催の運営推進会議では、利用者の状況や活動内容の報告、家族懇談会の報告などのほか、外に出ていってしまうことの防止対策や守秘義務の問題などの質問や意見が出されており、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話で利用者の状況を伝えながら、意見や苦情がないか常に問いかけている。また、夏と秋の2回の家族懇談会は意見を聞く場として開催し、健康診断の受診に関する要領などが出され、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域のお祭りやビアパーティーなどの行事、小学校のカボチャ運動会、近隣商店街への買い物や散歩を通して交流している。また、小中学生のボランティアや小中校授業の一環としての受入れを通じた積極的な交流も図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念のほかに、ホームの理念、運営方針、また、ケア方針を掲げ、地域社会の一員として、地域に愛される施設を目指し、地域の人々との交流や地域社会との関わりを大事にしながら、地域の中で「その人らしさを大切にゆったり楽しく」暮らせるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時の研修で理念・方針について学習するとともに、理念・方針を事務所や玄関、ホール内の目に止まる場所に掲示し、職員全員が常に確認できるようにしながら、その実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域のお祭りやビアパーティーなどの行事、小学校のカボチャ運動会、近隣商店街への買い物や散歩を通して交流している。また、小中学生のボランティアや小中校授業の一環としての受入れを通じた積極的な交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、サービス評価への意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果についても各ユニット会議で改善に向けて話し合い、具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヵ月に1回開催の運営推進会議では、利用者の状況や活動内容の報告、家族懇談会の報告などのほか、外に出ていってしまうことの防止対策や守秘義務の問題などの質問や意見が出されており、サービス向上に活かしている。		

山形県 グループホームあさひ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者から地区情報を得たり、ホームの活動や困難事例の相談、苦情の報告・相談を行い、随時、行き来する機会を多く持っている。また、管理者が町依頼のキャラバンメイト養成研修を受講したり、運営者(社長)が高齢者虐待防止ネットワーク運営協議会委員に委嘱されるなど、町と良好な関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、1ヵ月の利用者の暮らしぶりや健康状態などを、写真を入れた「お便り」に金銭明細書と領収書を添えて家族へ送付しており、また、面会時や電話でもその都度、事細かく報告している。職員に異動があった時は、面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話で利用者の状況を伝えながら、意見や苦情がないか常に問いかけている。また、夏と秋の2回の家族懇談会は意見を聞く場として開催し、健康診断の受診に関する要領などが出され、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動は年1回、今年は1名で、施設内研修を行い、利用者との馴染みの関係を築き、利用者へのダメージを防ぐ配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の取り組みとして職員研修に力を入れており、年間計画を立て、県や社会福祉協議会主催などの外部研修に職員全員が年1回は参加できるようにしており、また、ユニット間の交換研修や県外、近隣市町村、町主催などの講演会にも積極的に参加して、その内容をユニット会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他グループホームとの交換研修や夏祭りなどの行事への参加を通して交流を図り、ケアのあり方などの学びを深め、日頃のケアにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の幅広い生活経験や知識の中から、食事作りや畑仕事、ほし柿、かいもち作りなどを教えてもらったり、地域の風習を学んだりしながら、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの要望や日々の利用者との関わりの中で、本人の意向の把握に努めている。2週間ごと自宅に帰る方もおり、本人や家族の思いに添った支援をしている。困難な場合は、ホームの中で楽しめる事や外出などを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、利用者や家族の意見・要望を聴き、定期的にケア会議を開催して作成している。必要に応じて、かかりつけ医、行政、関係者と話し合い、また、少人数のプチケア会議を頻繁に行うなど、よりよい介護計画を目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間に応じて3ヵ月、6ヵ月ごとに、また、状態の変化に応じて随時、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医に、月1回定期的 に往診または通院により支援している。通院は基本 的に家族の同行をお願いし、この際、日常の様子や体 調の変化が分かる連絡帳を利用している。家族が困難 な場合は、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「看取りに関する方針」を定め、職員全員で共有してい る。状態変化時には、親族を呼んで説明し、一緒に方 針を決め、また、本人や家族、かかりつけ医、看護師の 意向を介護計画にまとめ、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	プライバシーの確保を徹底するために「プライバシー保 護」に関する文書を事務室やホーム内に明示するととも に、会議やミーティング時にも話し合い、周知を図って いる。トイレ誘導時には、耳元で声がけしたり、他の家 族や友人に個人情報を話さないなど気をつけている。 また、記録の取り扱いにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気持ちや生活のペースを尊重し、 自宅や畑に帰りたい方を送迎したり、1日に何度も外出 を共にしたり、押し花で年賀状作りをしたりと、柔軟に支 援している。		

山形県 グループホームあさひ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるように、昼食は週3日、夕食は毎日、利用者の希望を取り入れた献立としており、一緒に畑の野菜を収穫したり、買い物、準備、後片付けを行っている。車椅子の方は、座りながら食材を切るなど、できることに応じて支援している。食事も同じテーブルで楽しみながら食べ、出前や外食も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、希望する時間帯に入浴することができ、夏場は毎日入浴する方、朝入浴する方もおられた。入浴を拒否する方には、朝、声かけで対応したり、特殊浴槽で対応したりと工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事、雑巾縫いなどの役割、飾り物作り、ぬり絵、カラオケなどの楽しみ事、また、散歩やリハビリを兼ねた体操、ドライブ、外出などの気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や散歩、畑仕事、また、外食、ドライブや季節の外出(東沢公園、月山湖、隣町の花火大会、ダリア、バラ園見学)など、利用者の希望に沿って支援している。車椅子など自力外出が困難な方でも、体調や希望に合わせて日光浴や散歩、外出などの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関に鍵をかけることはなく、見守りにより利用者の行動把握に努め、自由に入出りできるようにしている。外出しそうな様子があれば、さりげなく声をかけたり、一緒に出かけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得ながら、利用者と共に避難訓練を実施している。今後、地域の人々の協力を得て実施する予定がある。備品は、消防署の指導を得て準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日記録し、把握している。旬の食材を多く取り入れ、個々に合った食事量を食べやすい形態で提供しており、カロリーコントロールの必要な方には、定期的に町立病院の栄養士からアドバイスを受けている。水分摂取量の少ない方には、お茶や野菜ゼリーを作るなど、工夫しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の生活空間は広くゆったりとし、障子戸の窓は広く、季節の移り変わりや自然光が十分入るように工夫され、畳の居間にコタツが置かれ、利用者は思い思いに過ごされていた。車椅子の方がいるため、椅子やテーブルの配置にも工夫され、また、テレビは食事の時、利用者が自主的に切っており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや整理タンス、椅子、テーブルなどの家具や仏壇、テレビなどを持ってきたり、家族の写真や小物、花を飾るなど、居心地よく過ごせる居室になっている。		